

動物実験センター

【教育】	
1. 到達目標	・実験動物を適正に飼育し、遺伝学・微生物学的に統御された実験動物を供給する。実験操作以外の全てを提供するフルサービスの他、研究者自身の実験そのものにも関与し、各種研究支援と種々の技術支援を利用者へ提供する。2022年度に改修工事が終了したため、各飼育室や実験室を研究者が利用しやすいように整備する。
2. 現状説明	実験動物が適正に飼養・保管され、適正に動物実験が実施されている。実験者から依頼を受けた各種の動物実験技術を全て提供した。今後もより充実したサービスを目指す。
3. 点検・評価	全学の教職員及び学生を対象とした「動物実験に係る教育訓練」をリモートで開催した。医学部大学院・学部学生に対する動物実験に係る教育を行った。センター利用者への教育は実験の内容が多岐にわたるため個別に行った。
4. 目標・改善方策の達成度	教育支援及び技術支援についても工事期間中は滞ること無く行われた。しかし、改修工事前に行われていた研究が工事終了後に開始されていないケースもあるため、施設の利用方法も含めて利用者に対して積極的に情報を発信する。
【研究】	
1. 到達目標	実験動物・動物実験に関わる新規技術の開発、ヒト疾患モデル動物の特性検索と他機関との共同研究の促進、生殖工学技術の改良、及び癌の放射線治療に関する基礎研究を中心に研究を進め、センター利用者の実験ニーズに応える。
2. 現状説明	研究成果を学会に発表するとともに日常業務に応用してセンター利用者の研究をサポートする。また、動物実験技術に関する講習会等の教育に活用している。
3. 点検・評価	センター利用者の実験遂行上の問題や課題について、個々の実験相談や技術提供を通じて動物実験をサポートした。実験動物・動物実験に関わる新規技術を利用者に提供した。
4. 目標・改善方策の達成度	多岐にわたる研究への支援技術に対し、更に高度な技術を提供できるように、自家研修を始め新規技術の開発研究を行う。また、適正な動物実験の環境を提供できるように、関連研究について研究を進める。
【社会貢献】	
1. 到達目標	日本実験動物技術者協会、日本実験動物協会、及び日本実験動物学会の各活動を通じて、動物実験技術の修得を目的とした実技講習会の講師や、日本実験動物学会主催の動物実験施設における外部検証制度に参画する。
2. 現状説明	日本実験動物技術者協会の本部または支部（宮城・福島・山形）の役員として携わり、実験動物技術者の実技講習会や講演会の主催者側として計画立案等を行っている。また、日本実験動物学会の活動として全国の国公立大学及び研究機関の外部検証専門員の活動を行っている。
3. 点検・評価	各種講習会や実技講習会を対面またはオンラインで開催した。2022年度は日本実験動物技術者協会の理事長・事務局長、同東北支部では副支部長、事務局、幹事として各活動に積極的に参画した。また、一部の国立研究機関に外部検証専門員として関わった。
4. 目標・改善方策の達成度	当センターの実習室を利用し、実験動物技術者の育成や動物実験手技の習得に向けた実技講習会の開催を計画し、社会貢献活動を積極的に行う予定である。

動物実験センター

業績分類	査読	著者・筆者・発表者・発明者・受賞者 等	論題・章題・演題・学会賞名 等	掲載誌・書名・巻・号・頁・PMID 学会名・開催地・年月 等	Impact Factor ・ JIF QUARTILE (2021)	刊行状況	研究情報備考
1. 論文	(2) 総説及び解説	査読有 Junichi Fujii, Tsukasa Osaki, Tomoki Bo	* Ascorbate Is a Primary Antioxidant in Mammals	Molecules. 2022 Sep;27(19):6187. PMID: 36234722	IF=4.927, Q2		
1. 論文	(2) 総説及び解説	査読有 伊藤恒賢	大学研究機関における実験動物技術者のスキルアップについて	日本実験動物技術者協会関東支部会報. 2022年10月; No. 202: p18-19			
2. 学会報告	(2) 国内学会	iii 一般演題 査読有 福田直樹、尾崎順子、須藤まゆみ、野原豪和、房 知輝、高橋智裕、片平清昭、伊藤恒賢	ラット用ダブルデッキ式ケージの有用性 -2. 育成期のケージ内環境について-	第56回日本実験動物技術者協会総会、松本市、2022年10月			B C
2. 学会報告	(2) 国内学会	iii 一般演題 査読有 須藤まゆみ、尾崎順子、福田直樹、野原豪和、房知輝、高橋智裕、片平清昭、伊藤恒賢	ラット用ダブルデッキ式ケージの有用性-1. 繁殖期のケージ内環境について-	第56回日本実験動物技術者協会総会、松本市、2022年10月			B C
2. 学会報告	(2) 国内学会	iii 一般演題 査読有 伊藤恒賢、須藤まゆみ、福田直樹、尾崎順子、野原豪和、房知輝、高橋智裕、片平清昭	ラット用ダブルデッキ式ケージの有用性-3. 後分娩交配時の雄ラット交尾行動とケージ内環境について-	第56回日本実験動物技術者協会総会、松本市、2022年10月			B C
2. 学会報告	(2) 国内学会	iii 一般演題 査読有 尾崎順子、村上誠、栢本直行、伊藤恒賢	マウス尾静脈投与・採血トレーニングのために開発されたHUMANEWAYマウス尾静脈シミュレーターの耐久性	第56回日本実験動物技術者協会総会、松本市、2022年10月			C
2. 学会報告	(2) 国内学会	iii 一般演題 査読無 Tomoki Bo, Koen Van Wijk, Tsunekata Ito, Osamu Nakajima	* The effect of inhibition of heme synthesis on cellular survival and mitochondrial function after X-irradiation	日本放射線影響学会第65回大会. 大阪:2022年9月			
2. 学会報告	(3) 国内地方会	ii シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・教育講演等 査読有 野原豪和、房 知輝、伊藤恒賢	動物実験施設職員から見た日常の空調管理（山形大学の事例）	第72回日本実験動物環境研究会、東京（オンライン）; 2022年11月			
2. 学会報告	(3) 国内地方会	iii 一般演題 査読無 福田直樹、野原豪和、尾崎順子、須藤まゆみ、松沢幸彦、澤村英明、井上 歩、AHMED FAISAL、原田 弥子、房 知輝、伊藤恒賢	「山形大学動物実験センターの改修工事に伴う設備のトラブルと対応について」	日本実験動物技術者協会奥羽・東北支部第8回実験動物技術研究交流大会、仙台、2022年5月			
2. 学会報告	(3) 国内地方会	iii 一般演題 査読無 房 知輝, Koen Van Wijk, 伊藤 恒賢, 中島 修	* Succinyl acetoneによるヘム合成阻害はX線照射後のミトコンドリア機能亢進を抑制し放射線誘発細胞死を増強する	第30回山形分子生物学セミナー, 山形, 2022年11月			
6. その他		伊藤恒賢	山形大学医学部動物実験センター 改修工事概要説明	日本実験動物技術者協会東北支部・施設見学会、山形市; 2022年8月			